

教育・研究等業績一覧

履 歴						
フリガナ		ヤマダ カツミ		所 属	保育学科	
氏 名		山 田 克 己		身 分	教授	
学 歴						
年 月		事 項				
1986年3月		北海道拓殖短期大学（現 拓殖大学北海道短期大学） 保育科 卒業				
1987年3月		北海道教育大学旭川分校 情緒障害教育教員養成課程 修了				
2004年3月		佛教大学 教育学部教育学科 卒業				
職 歴						
年 月		事 項				
1987年4月		学校法人山の手学園 平和幼稚園 勤務				
1999年3月		学校法人山の手学園 平和幼稚園 退職				
1999年4月		学校法人北工学園 旭川福祉専門学校 勤務				
2004年3月		学校法人北工学園 旭川福祉専門学校 退職				
2004年4月		拓殖大学北海道短期大学 保育科 専任講師				
2006年4月		拓殖大学北海道短期大学 保育科 助教授				
2007年4月		拓殖大学北海道短期大学 保育科 准教授（職位名改称）				
2015年4月		拓殖大学北海道短期大学 保育科 教授 現在に至る				
教 育 業 績						
1 担当授業科目（2022 年度）						
科 目 名		出講場所	期別	曜日	時限	備 考
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（1年）		302 教室	前期	金	3	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（2年）		302 教室	前期	金	4	
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（2年）		302 教室	前期	火	3	
特別研究（身体表現）		302 教室	前期	金	2	
身体表現演習Ⅰ		クリスタルホール	前期	火	4	
保育実践演習		301 教室	前期	火	2	
領域言葉		クリスタルホール /体育館	前期	木	3	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（1年）		302 教室	後期	金	3	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（2年）		302 教室	後期	金	4	
特別研究（身体表現）		202 教室	後期	金	2	
保育実践演習		クリスタルホール /301 教室	後期	火	2	
保育内容Ⅳ（こどもの言葉）		クリスタルホール /303 教室	後期	月	3	
総合芸術		クリスタルホール /体育館	後期	月・金	5	
専門研究		クリスタルホール /体育館	後期	月・金	5	

2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900 字以内)	特別研究は1 グループ展開で行う事が出来たため、学生同士の対立が起きないと予測していたが、人間関係において、いくつかの問題が発生し、前半の練習が滞った。学生の取り組む姿勢にかなりの温度差があったため、良い雰囲気にすることが難しい状況であった。最終的なクオリティーは例年と大きな差が出なかったが、公演終了後の様子は若干冷めていた。学生が楽しくなる事を目標に行ったが、達成されたと思われる者は約8割おり、ほぼ達成されたと言っても良い。今年度もコロナワクチン接種やその副反応であったり、実習で欠席する学生が多くいたりしたため、完成するまでに時間を要した。 言葉関連の授業においては、実技と講義のバランスが適度であったため、学生の反応も良く、授業の意図が伝わったと感じている。また、グループで行動する為、交友関係の広がりにも大きな影響を与える事ができた。 総合芸術・専門研究においては、脚本の手直し、キャストティング、演出、音楽制作、BGM 編集、MC・セリフ録音など、多岐に渡って活動しなくてはならない状況の中、歌唱指導において元副学長である土門先生に2回お越しいただきレッスンをを行う事ができた。学生にとっても指導者にとっても勉強になる事が多い時間となった。コロナやインフルエンザ等の影響によって常に欠席者がおり、本番までに全員が揃ったのは3回しかなかった。今年度のキャスト希望者が少なかったため、他の部署と兼務する者や異動してもらった学生が4名。また4役や3役をこなさなければならない学生が出てしまい、来年度もかなり不安な要素が残る状況である。
3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み (記述式：900 字以内)	特別研究は本番を経験してから、活動の意味が分かるものである。よって公演回数が増えるとその効果が上がり、自ら工夫し意欲をもって取り組む状態になる。今年は何とか3回公演する機会があり、振り返りの活動記録からは、満足した様子が伺えた。また、この活動を通して心が通じ合う仲間が出来た事も重要な要素と言える。よって、4月より台本を渡し、自分の役を全うしながら、多くの学生と関わり合う方法が望ましい。 言葉関係の授業では、楽しかった、ためになったという評価が多くあった。パネルシアターや何でもカルタの製作においては、計画通りにいかず提出日に間に合わない学生もいたが、大半は期日が守られていたので、スケジュールを変更する事なく進めていきたい 総合芸術・専門研究においては、4月より仮実行委員会を早めにスタートさせ、スタート時の10月から活動が円滑に進むように整え、40回目のミュージカルを多くの人の記憶に残る作品にしたい。
4 教科書、教材の作成状況 (記述式：300 字以内)	・(2006) 子ども向けミュージカル「ミュージック王国～アニメの秘密～」の脚本・音楽を作成 ・(2007) 子ども向けミュージカル「ミュージック王国～アニメの秘密～」を幼児用台本に改定 ・(2008) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の脚本・音楽を作成 ・(2009) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」を幼児用台本に改定 ・(2010) 子ども向けミュージカル「いじめハンターASOBI 隊」の脚本・音楽を作成 ・(2012) 子ども向けミュージカル「心のアンサンブル」の脚本を作成 ・(2013) 子ども向けミュージカル「忍者塾 HIRAKU」の脚本・音楽を作成 ・(2014) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の改訂脚本を作成 ・(2015) 子ども向けミュージカル「心のアンサンブル」の改訂脚本を作成 ・(2016) 子ども向けミュージカル「リズムミック王国～パークスの扉」の脚本・音楽を作成 ・(2017) 子ども向けミュージカル「忍者塾 HIRAKU」の改訂脚本を作成 ・(2018) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の改訂脚本を作成 ・(2019) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の改訂脚本を作成 ・(2020) 子ども向けミュージカル「リズムミック王国～パークスの扉」の改定脚本を作成 ・(2021) 子ども向けミュージカル「いじめハンターASOBI 隊」の改定脚本を作成 ・(2022) 子ども向けミュージカル「忍者塾 HIRAKU」の改訂脚本を作成
5 学生の指導（課外活動・厚生補導等） (主要 10 件以内)	○子ども向けミュージカル、歌、ダンス、ジャグリングのパフォーマンス ・深川市主催「子どもまつり」・「クリスマス会」 ・旭川神楽児童センター「ハロウィンハロウィン」でのパフォーマンス
6 その他 (主要 5 件以内)	

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	・幼児にとっての模倣力と社会性との関連をまとめ、模倣力を育てるためのプログラムを構築する。 ・DTMを使用することにより、幼児の音楽及び発表会などの行事にそれをどう役立てるか考察し実践する。 ・子ども向けミュージカル活動を通して、学生達の表現力をいかに豊かにすることができるか、その方法を身体表現コース特有の実技系科目としっかりとリンクさせ見出していく。活動内容をDVDや活動記録集に収める。 ・ミュージカル活動を通して、学生の表現力・段取り力・人間関係調整能力・創造力・集中力・協調性などの様々な能力を引き出し育てるプログラム作り。 ・身体表現コースの運営方法を他のコースとのバランスを取りながら考察する。 ・保育現場において障害児を受け入れるにあたっての体制作りと、対応の方法。 ・保育の方法とその意味について、子どもと教師の両側面から捉えたテキスト作成 ・「幼児期運動指針」に挙げられている28種の動きを、日常の活動の中に取り入れ実践し、その成果をまとめる。			
	2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内) ・随意運動発達検査を活用し、手遊びやフォークダンス感覚で使えるプログラム作り。 ・保育の教材化をねらいとしたミュージカル活動の実践 ・表現力を高めるためのプログラム作り ・幼児を対象としたミュージカル制作 ・保育園・幼稚園における自由活動のあり方 ・「幼児期運動指針」に示された28種の動きを取り入れたプログラム作成 ・新卒者の仕事に対する意識調査			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費			
	(2) 学内			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	(3) 学外			
	拓殖大学人文科学研究所研究助成 保育士資格 幼稚園教諭2種免許 養護学校教諭1種免許			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表の 年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
保育士養成校における教育活動としてのミュージカル・オペレッタ活動の一考察～2校における教師の関与比較から～	共	2004年	日本音楽表現学会	本校と他校での取り組み方を紹介するとともに、それぞれの学校における教師の関与量が違うことよっての長所と短所及び今後の課題を明確にした。
保育科学生によるプチミュージカル制作の実践報告～保育の教材化に結びつく作品作り～	単	2005年	日本音楽教育学会	学生が中心となって行う創作ミュージカルを幼稚園や小学校でも取り入れることができるよう意識をして制作。作品内容に子どもたちが参加できる場面を多くとり入れることにより、保育実践に類似したLive感覚を味わうことができた。
保育士養成校における教育活動としてのミュージカルの一考察 活動時間の抑制が及ぼした影響について(拓殖大学北海道短期大学の事例から)	共	2005年	日本音楽教育学会	活動時間を大幅に抑制したことよっての様々な影響を挙げ、今後の取り組み方を見いだす。決められた時間内で完成させなくてはならない体験を学生も指導者もすることにより、それぞれの立場で翌年の目標が見えた。
ミュージカル活動における指導体制改革とその効果 拓殖大学北海道短期大学の事例から	共	2005年	日本音楽表現学会	これまでの21年間の指導体制を示すと共に、改革するに至る経緯と改革をしたことによる効果を挙げている。
「創作ミュージカル活動」の実践 一課外活動から授業化に至るまでの変遷と改革	共	2005年	日本音楽教育ジャーナル	一人の教員と学生達で構成された自主活動としてスタートしたミュージカル活動の変遷を綴りながら、学校及び地域に認められ最終的には授業化され市からの助成金を頂くようになった活動の目指す方向を示している。
保育科学生によるプチミュージカル制作の実践報告～2年間の活動比較と今後の展望～	単	2006年	日本音楽教育学会	制作方法が1回目と2回目にどのような違いがあったのか。変えたことよっての成果はどのような形で現れたのか。3回目へ向けての展望などについて報告している。

ミュージカル活動における指導体制改革とその成果（再参加率を中心に） 拓殖大学北海道短期大学の事例から	共	2006年	日本音楽教育学会	2年生の再参加率が8年ほど前より減少し続けている減少に着目し、その原因を解消すべく大改革を断行した。その結果、再参加率は激増し、伝統とも言える2年生から1年生への伝承行為が復活した。
「踊ってあそぼう」 ～模倣力が子どもを育む～	単	2009年	拓殖大学北海道短期大学後援会	踊りの振りを単なる振りとして捉えるのではなく、ごっこ遊びの要素を多く取り入れ、子どもの「なりきり」を上手く引き出しながら展開することが望ましい。
学生ミュージカルにおける学生の変容 ～歌唱に注目して～	単	2012年	日本音楽表現学会	ミュージカル活動のキャストは大きく変容するが、歌唱においてはその役になりきれた時点からはっきりとした変化が見られる。すなわち、演技と歌唱には相関関係があり、指導する側はそこに着目する必要がある。
特別な対応が必要な子どもに対する機関連携をめぐる諸問題 —就学前幼児療育機関と学校教育の連携— その4 過疎地域における幼稚園・保育所と特別支援学校との連携の実情と課題	共	2013年	札幌学院大学 人文学会紀要 第93号	北海道の過疎地である5つの振興局管内の幼稚園と保育所では、どのような特別支援教育（保育）が行われているかについて、アンケート調査を行った。その結果、幼稚園と保育所において実質的な違いはなかった。また、特別支援を充実させる為には特別支援学校との連携を密接にするなどの省庁管轄を超えた協力体制や地域ネットワークの充実が有効と言える。
学生の実態に即した保育実習日誌作成の取り組み	単	2013年	拓殖大学人文・自然・人間科学研究 31号	本学の学生にとって最も適した実習日誌の様式を作成する為に1、2年次に行う保育・教育実習後に平成19年から25年までアンケート調査を行いその都度改訂をしてみた。その結果8割以上の学生が内容の質を落とさずに2時間以内で記述できる様式が完成した。またその様式が全道の養成校で統一したものとなり、改訂に取り組んだ成果が現れた。
幼児センターにおける保育実践 ～運動遊びと言葉遊び～	共	2018年	拓殖大学北海道短期大学研究紀要創立 50周年記念号	3、4、5歳児が言葉や文字や数字に対し興味関心を促す取り組みとして、愛別幼児センターにて年4回研究実践保育を展開した。方法としては、保育者が一定のリズムに合わせて話す物の名称を聞いた子どもが、同種の場合は手を打ち異種の場合は手を打たないというルールでの即時反応ゲームを行うことにより、語彙数を増やしていく実践研究。文字・数・絵のカードを使用し単純なカード取りの他に、運動要素を多く取り入れた活動を意識して展開し、よりゲーム性の高い展開にする事で、幼児が楽しく文字や数字を覚えられる工夫について実践研究したものの。
自発的な活動を促す「子ども向けミュージカル」の開発及び改善	共	2022年	拓殖大学人文・自然・人間科学研究 47号印刷中	子どもが自発的に鑑賞し表現する「子ども向けミュージカル」の開発及び改善を行い、幼児教育段階での取扱いを考察するものである。その基盤となる幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、2017年度の全面実施から5年が経ち、幼児期の学校教育としての位置づけがますますクローズアップされてきている。こうした現状を踏まえ、幼児期の学校教育としての幼稚園等の学びや小学校教育との連携、幼児教育段階での「子ども向けミュージカル」の取扱いを明らかにすることを試みた。

幼児期運動指針による「運動あそび」の実践と展望		共	2023年	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究所年報第13号	愛別幼児センターにおいて 2017 年～2022 年各季適時、年間 4 回（2020 年度を除く）、合計 20 日間の保育実践を各回、3 歳児（30 分間）、4 歳児（30 分間）、5 歳児（60 分間）行った。実践内容は、幼児期運動指針に示されている①体のバランスをとる動き②体を移動する動き③用具などを操作する動きの計 28 種類の動きを、サーキット遊びを中心とした、保育現場で実践が容易な活動を考案して取り組んだ。その結果、保育教諭の「運動遊び」についての考え方に変化が生じ、クラス内活動や自由活動の中にプログラムで行った内容を積極的に導入するようになった。また、子どもが運動する事に対し積極的になった。		
子どもが育つ「遊び」と「学び」とは—幼保小接続の現状と課題		共	2023年	拓殖大学北海道短期大学研究紀要 第 3 号	拓殖大学北海道短期大学保育学科におけるリカレント教育 「第 26 回保育セミナー 2022 子どもが育つ「遊び」と「学び」とは—幼保小連携の現状と課題」の報告である。本セミナーは、幼保小連携・接続とは何か、道の取り組みや園と小学校での実践事例から保育者が学ぶリカレント教育である。具体的な内容としては、①我が国の幼児教育政策と北海道の幼保小連携の最新動向を講義で学び、②ワークショップ（カタリバ）において実践者同士で日々の保育実践に関して意見交流をグループ内で行い、③各グループの報告に対して小学校校長や養成校の教員からコメントをするものであった。参加者アンケートによれば、参加者の約 8 割が本セミナー内容に対して肯定的な評価をしている。本セミナーの目的と照らし合わせると幼保小連携の現状や将来を見据えそれぞれの保育者が自らの実践を豊かにするヒントを参加者は本セミナーから少なからず得られたのだと判断できよう。		
研究業績（過去 3 カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無		
著作数	論文数	学会等発表数	その他				
0	1	0	1	無	有		
学 内 運 営 業 績							
1 役職、各種委員会等 （主要 10 件程度）		広報委員会委員長					
		総合委員会					
		コロナ対策委員会					
		経営戦略会議					
学 外 活 動 業 績							
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 （主要 10 件程度）		愛別幼児センターフロアリズム講師（年 4 回）					
		旭川福祉会理事					
		教育委員会より委託された「エリアスーパーバーザー」					
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）		日本音楽表現学会					
		北海道乳幼児療育研究会					
		北海道子ども学会					